



『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

第5号(2008年4月4日)

「『長期投資』の重要性」

「『長期投資』の重要性」投資」は原則として短期的な売買は行わず、長期保有することを基本とします。そこで、今回は「長期投資」の重要性についてご説明致します。

株式投資をする際、非常に重要な項目がいくつかありますが、その中に保有期間があります。もちろん、どの銘柄をいつ買うかも重要ですが、売却することで損益が確定するという観点から、買付よりも売却の方が難しいという意見もあり、売却のタイミングを決める保有期間も非常に重要なのです。では、長期投資の「長期」とは、どの程度の期間を意味するのでしょうか？1年なのか、それともよく経営者が経営戦略を立てる際に考えるとと言われる3年～5年なのか、はたまた10年かそれ以上なのか。ここで参考になると考えているのが前回でも名前が登場した、ウォーレン・バフェット氏の「永久保有銘柄」と言われるものです。

例えば、彼がこれまでに投資した「永久保有銘柄」の中に、皆様にとっても馴染みがあると思われる米国の飲料メーカーがあります。彼が会長兼CEOを務めるパークシャー・ハサウェイ社の年次報告書に目を通すと、1988年に初めて同社に投資して以降、一貫して継続保有しており、更に驚くべきことに1994年以降、売買すらしていないことが分かります。同社以外にも30年以上保有しているメディア企業や18年以上保有しているカミソリ・メーカー（買収された後は日用品メーカー）など、売却する意思のない長期で保有している銘柄がいくつかあります。彼は投資した銘柄全てを長期保有しているわけではありませんが、時には「永久保有」と言われる程の長期投資で世界でも有数のお金持ちになったのがウォーレン・バフェット氏なのです。

ではなぜ、長期投資が良いと言われるのでしょうか。株価は短期的に需給の影響を受けることがあるため、企業の本当の実力を反映せずに推移することがあり、そのため需給を考慮しながら短期的に株価を当て続けるのは非常に難しいと言えます。また、景気そのものに周期性があり、企業の業績も多かれ少なかれその影響を受けると考えられますので、長期投資することにより、短期的な需給や景気の良し悪しを極力排除し、結果として真に実力のある企業の息の長い成長に参加できると考えられます。

長期投資の有効性を享受するためには、ウォーレン・バフェット氏が実践する「永久保有」に値する銘柄かどうか精査しながら、新興国などの世界経済の成長から恩恵を受けられる銘柄への投資をすることであると言えます。

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。また、上記は株式投資に関して理解を深めていただくためのものであり、特定の有価証券を推奨しているものではありません。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。